

---

版 魔法少女リリカルなのは Brave Force of Battle Frontier

無神

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

劇場版 魔法少女リリカルなのは Brave Force of Battle Frontier

### 【Nコード】

N6351Z

### 【作者名】

無神

### 【あらすじ】

古代ベルカの騎士、ゼロ・エルグランドの新たな戦いの記憶――

## 眠れる流星

そこは…まるで、古代神殿のようで  
辺りを見渡すと壁にはツタが生い茂っており、中には今にも崩れそ  
うなほどボロボロの跡地もあった。

「ここが……聖王の玉座……」

一人の青年は、玉座の下が地下に続く隠し階段があることに気付き、  
その階段を降りて行く。

「……この先を進んで行けば……」

神殿の奥地、そこは大きな空洞になって青年はその先を進んでいく。

「！……これはッ……」

奥地…青年の目の前に巨大な氷の塊が見える。すると、青年は笑み  
を浮かべ、氷の塊にてを触れる。

「ようやく会えたな…目覚めの時だ」

氷の中にいる黒い鎧を身に纏う者――

その者の瞳がゆっくりと開いていく…

彼の名は…流星の黒騎士…

『ゼロ・エルグランド』

孤高の機動六課（レジスタンス）

三日後――

ミッドチルダ

ドオオン??

「きゃあああああ!!」

「逃げろお!!早く地下に避難するんだあ!!」

「逃げ!奴らが来るぞツ!!」

突如、ミッドチルダが数十体ものガジェットドローンに攻撃を受けていた!

そしてガジェットに怯え、次々と地下に逃げ込むミッドの民間人。といっても、人数はほんの15人くらいだが…

ギューーーーーンッ!

「おい、あれを見る！」

「六課だ！助けに来てくれたんだ！」

「うおりゃあああああああ！！！」

青い髪に白いバリアジャケットを着た少女がガジェットドローンの  
一体を破壊する！

スバル「スターズ3 スバル・ナカジマ、行きます！」

ガジェット『……！！』

スバルはガジェットのビームを掻い潜り、一体ずつ確実に破壊して  
いく。

すると、目の前に巨大な球体型ガジェットが現れる！

ガジェット『……！！』

スバル「うわっ！？くっ………はあ！！！」

球体型ガジェットの触手がスバルに向けて放たれる！だが、触手を素  
早く回避し、球体型ガジェットに肉薄する！

ガジェット『……！！』

スバル「そおこだあああああ！！！」

ギューーーーーンッ！！

右手に装備したデバイス『リボルバーナックル』で殴りつけるが、特殊なバリアに防がれ、スバルはリボルバーナックルを無理矢理押し込んでいく！

スバル「ぐう……うおおおおお！！」

ガガガガガガガガッ！

スバル「一撃い……必倒ッ！」

無理矢理押し込んだりボルバーナックルでバリアの内側から破壊し、左手周辺に圧縮・固定させた魔力をガジェットの目前に留まらせる。

スバル「デイベイーーーーン……」

スバル「バスターーーーーッ??」

加速させた右拳で圧縮された魔力を撃ち出し、一気に放出させる！強力な破壊力と貫通力で周囲と破壊したガジェットの後方にいたガジェットは砲撃に巻き込まれ爆散していく！

「スバル！」

スバル「ティア！それに、エリオとキャロ！」

スバルの下にティアナ・エリオ・キャロが駆け付ける。

ティアナ「敵の数は…？」

スバル「まだ来るよ。たぶん、一個大隊くらい…」

ティアナ「確実に此処を落としに来たわね…でも、よかった。こっちも増援を呼んでおいて」

スバル「それじゃあ…！…！」

ティアナ「ええ！管理局の“エース オブ エース”と…それから“彼”も来るわ！」

エリオ「スバルさん！ティアナさん！」

キャロ「前方、敵影多数…来ます！」

キャロの召喚獣フリードリヒに乗り、上空から見ていたエリオとキャロから報告が入る。

スバルは左掌に右拳を打ちつけ気合いを入れる！ティアナは上空にいる二人に指示を出し、己のデバイスを構える！

スバル「よおしっ！あの人達が来るなら百人力だね、ティアア！」

ティアナ「増援が来るからって気を抜かない！私たちは…多くでも敵を墜としていくわよ！」

ス・エ・キ「…了解…！」

??? side

「そろそろ時間だよ。行こう」

「……向こうは大丈夫なのか？」

廃墟となったビルの頂上…そこで白いバリアジャケットを着た少女と黒い甲冑を身に付けた男は話す。

「あつちはフェイトちゃんとノエルくんが頑張ってくれてる。だから、私たちはフォワード陣に加勢して少しづつ敵を倒していこう！」

「ああ！はやて達がいけない今、このミッドチルダを守れるのは機<sup>おれ</sup>動六課<sup>たち</sup>だけだ！……頼むぜ、フェンリルッ！！」

フェン『Yes sir』

「行くよ！レイジングハート…！」

レイ『stand be ready』

ビルの頂上から桜色の閃光と翠色の閃光が飛翔する！

なのは「スターズ1 高町なのは、行きます！」

ゼロ「スターズ2 ゼロ・エルグランド、出るッ！」

孤高の機動六課（レジスタンス）（後書き）

無神「どうも、無神です」

ゼロ「序盤から元気ねえけど、どうした？」

無神「まさかのタイトル詐欺…そして話をいきなり先に進めすぎた… f ^ | ^ ; )」

ゼロ「まあ…それもこれも全部、次回話で書けば良いだけだろ？」

無神「ああ、そうだね」

ゼロ「何だよ！その顔は！」

無神「早くコラボまで話進めたいなあ…」

次回『異世界への旅立ち』

ゼロ「異世界へ行こう！あの二人も協力してくれるはずだ」

## 閑話 ゼロ・エルグランド

ゼロ・エルグランド CV：宮野 真守

出身 古代ベルカだが、氷結魔法『ヘイムダル』により、ベルカ神殿奥地で永い眠りについていた

魔法術式 古代ベルカ式。剣術で近接戦闘型。

稀少技能<sup>レアスキル</sup>

無の左手 起動させれば、全ての魔力結合を分断させることができる  
だが、使えばリスクがあり、多用すればするほど己の魔力・生命力を失っていく。

デバイス フェンリル 人格型ベルカ式カートリッジシステム型アイテムデバイス

形状 両刃剣 ボルトアクション式。六つまで装填できる。

柄が二重構造になっており、装填の際は柄の中に入っているカートリッジ補給口伸長して露出

弾丸を補給した後柄の中に移動して装填となる。

待機フォルム 翠色の球体ペンダント（なのはのRH待機フォルムの翠色ver）

騎士甲冑 黒い装束に左肩には黒いシールドと胸部を守るためにプロテクターを付けている。

左腕には『無の左手』を制御するために黒い布を被せている。

下記の絵画を参照

性別 男

本作の主人公。性格は少々荒っぽいが、心の奥底には優しさもある。髪型は長髪の黒色、青く鋭い瞳をしている。

古代ベルカでは聖王オリヴィエ直属の守護騎士に属していた。

だが、自ら死地に赴く（ゆりかごへの搭乗？）オリヴィエを止めようとした際

聖王配下の魔導師により、氷結魔法『ヘイムダル』で永き眠りにつくことになる。

オリヴィエからは信頼されておりクラウドとの（武技に関しての）面識もある。

永いこと眠りについていたが、それから300年・・・氷が解け、ゼロの新たな物語が始まる。

> i 2 6 0 3 1 — 3 2 4 4 <

## 閑話 ノエル・ブローニング

ノエル・ブローニング CV：神谷 浩史

出身 ミッドチルダ西部アルトセイム（元は管理局所属だったが、  
JS事件でジェル側確保され、事件終了時まで

生体ポッドに入れられ保  
管されていた）

魔法術式 ミッドチルダ式。魔力変換資質『電気』所有

デバイス バルディエル・アサルト インテリジェントデバイス（  
フェイトのバルディッシュとは兄妹機）

形状 長距離砲戦型レールガン・双拳銃・双剣

スピードローダー 6連装リボルバー式カートリッジ

リボルバーで弾を一度にシリンダーに装填する  
ための装置。

スタンバイフォーム ブレスレットで真ん中に金色の宝石がはめ込  
まれている。

普段は左手首に嵌めている。

バリアジャケット フェイトと同じ『インパルスフォーム』の男着

下記の絵画を参照

性別 男

本作二人目の主人公。生真面目な性格だが、その使命に忠実すぎるがゆえ、やや融通が利かない所がある。

白髪でショートヘアな髪型で瞳は紅色。

元管理局所属で優秀な魔導師だった。だが、JS事件でスカリエツティのアジトを探索中行方知れずとなり

事件終了時、アジトに保管されていたところをフェイトに救出された。

スカリエツティのアジトに居る頃は戦闘機人の実験をされいたが失敗に終わり

その後はずっと生体ポッドで眠らされていた。なお、ノエルの身体は実験で半分は

機械なので、スバル同様『戦闘機人モード』になることもできる。ゼロとは初めは、いがみ合いながらも徐々に互いを理解しつつ共に成長していく仲になっていく。

何故、フェイトのバルディッシュと兄妹機なのかは不明。

> i 2 5 0 7 2 — 3 2 4 4 <

## 異世界への旅立ち 前編（前書き）

どうも、皆さん。無神です……

更新が遅くなったのと、文数が足りなくて前編と後編に分けてしまったこと、深くお詫びします。申し訳ありません！orz

では、始めます

## 異世界への旅立ち 前編

過去――

ゼロ「ここは……？お前は……」

ノエル「僕はノエル・ブローニング。ノエルと呼んでくれ」

ノエルは地面に片膝が付いたままのゼロに手を差し伸べる。だが、ゼロはその手を取ることはせず、ある事を質問する。

ゼロ「……ベルカは…滅んだのか…」

ノエル「もう300年も経つ……ベルカの遺物は…もう殆ど残ってはいない」

ゼロ「……………」

もう…300年も経つのか…“アレ”から――

ゼロ「で、俺を今ごろ目覚めさせたのは、どういう理由だ？」

ノエル「お願いだ……この世界を救ってくれ！」

ゼロ「？……何があつたんだ……？」

その後、俺はノエルと共に“ミッドチルダ”という彼らが拠点としている世界にやってきた。  
だが、そこで俺が目にしたのは残酷なものだった……

ゼロ「なん……なんだ……これはッ……！」

ノエル「これが……今の世界の現状だ……！」

ゼロが見た風景。荒れ果てた街、そして何処を見回しても人の気配すら感じさせない。まるで“壊滅”したかのような街だった。

ノエル「僕らはこの場所で今でも戦い続けている……“オーガ軍”から世界を救うために……」

ゼロ「ノエル……」

ゼロはノエルに「こつちだ」と言われ、その後をついて行く。そして辿り着いたその場所には少数の民間人らしき者と軍服を着た7人の女性らがいた。

ゼロ「これは……」

ノエル「軍服を着た彼らは“元管理局だった”者達だ。そして僕も、

またその一人……」

ノエルはそう言った途端、少し俯く。

???「ノエルくん、もしかしてこの人が予言にあった……」

ノエル「はい。カリム・グラシア少将が遺した最後の予言にあった『黒い鎧を身に纏う者』。彼がそうです」

先ほどノエルに話しかけてきた女性が、ゼロを見て右手を斜めに上げながら前が出る。

すると、金髪の女性も同じく前が出る。

なのは「高町　なのはです！」

フェイト「フェイト・T・ハラオウンです……！」  
テスタロッサ

ゼロ「ああ……俺はゼロ・エルグランドだ。で、そっちの4人組は……？」

ゼロはなのはとフェイトの後ろに控えていた4人組を見て、自己紹介を要求する。

スバル「す、スバル・ナカジマです！よ、よろしくお願いします！」

ティアナ「ティアナ・ランスターです！よろしくお願いします！」

青い髪の……スバルという少女は少しオドオドしているが、ティアナという少女はしっかりとしてるな……

ゼロ「で、次は…子供…！？」

赤い髪の少年とピンクの髪の少女を見たゼロは少し驚く。

フェイト「まあ、驚くのも無理はないよね。普通の子供は学校に行つて、友達を作つて平和に暮してる…っていうのが普通なんだけど、今はそうも言つてられないんだ…！」

ゼロ「どういう事だ…？」

フェイトの言葉に少し疑問に思うゼロ。

そして赤髪の少年とピンクの髪の少女が前に出る。

エリオ「エリオ・モンディアルです！話は聞きました。貴方も『騎士』なんですね…！」

ゼロ「ちよっ…そんな期待の眼差しを向けられても困るんだが…」

キラキラした瞳でゼロに期待の眼差しを向けるエリオ。ゼロはその眼差しに少し引き気味で後ろに下がっていく。すると、ピンクの髪の少女がエリオ抑えて何やら叱っていた。

「…？」「もう、エリオくん！ゼロさんが困るからやめよう？…あつ、紹介が遅れました。キャロ・ル・ルシエです！エリオくんが迷惑かけて、すみません…」

エリオ「ちよっ…キャロ…！」

ゼロ「…二人は、仲が良いんだな」

エリオ「……え……？」

いや、多分どこから誰がどう見ても、そう思うと思うぞ？少なくとも俺は。

ゼロ「仲間“……か……”」

聖王オリヴィエ……貴方との“約束”まだ果たせそうにない……

ゼロ「オリヴィエ……」

空を見上げ、一人遠い場所へと逝ってしまった古代ベルカ聖王女オリヴィエ・ゼーゲブレヒトの事を思うのだった。

異世界への旅立ち 前編（後書き）

無神「はあ……」

ゼロ「今度は何だよ……」

無神「ちよつと友人関係でイライラを通り越して呆れてたんだ……」

ノエル「何があつたか話してみる」

無神「いやさ、過去の事を今になって引きずる奴って正直言ってウザイ……」

という事で、またイライラしてきて正直頭が回りません。ですので、また更新が遅れるかと思いますが頑張ってチマチマ書いていきますのもう少し待っててください。

それでは……

## 異世界への旅立ち 後編

現在――

ゼロside

俺たちはあの後、攻めてきたオーガ軍を退ける事に成功した。

そして、今は地下の基地に戻り、これからの対策を練っている。

ノエル「…ゼロ、君に見せたい物がある。ついて来てくれ」

ゼロ「?……分かった」

俺とノエルは外に出て、空へと飛翔する。

雲を突き抜け、青空が広がるその一点に大きな渦巻いた空間を見つける。

ゼロ「アレは……一体なんだ?」

ノエル「…世界がまだ平和な時…：突然、空にあの空間が出来た。  
…そして奴らはあの空間からやってきて、世界は滅んでしまった…」

ゼロとノエルが会話しているところになのはとフェイトも現れる。

なのは「そして…たまたま宇宙そふに上がっていたクロノくんとはやて  
ちゃんは行方不明……」

フェイト「…本局も壊滅して、生き残った私たちは機動六課レジスタンスという  
肩書きで生き残ってる民間の人達を救出したりしていつてるけど…  
…」

ゼロ「それも時間の問題か…。だから俺を目覚めさせたんだな？」

ノエル「君は予言で『ベルカより目覚めし黒い鎧を身に纏う者、世  
界を救済へと導く』。そう書いてあった」

フェイト「だから私たちは君が雄一の希望になると思ってノエルを  
向かわせたんだ」

ゼロ「俺が…：世界を救う…」

ゼロ達は地上へと降りた。

ノエル「ゼロも揃い、こちらの準備は整った。後は多世界へ行つて

強い仲間を率いれば、オーガ軍に反旗を翻せる！」

ゼロ「だが、多世界に行くにはどうすればいい……？」

ノエル「さつきも見せたあの空間。アレをシャーリーに調べてもらった結果、あの空間の中は様々な世界が広がっているらしい」

ノエルは後ろを振り向く、するとそこにはシャーリーが居てゼロのデバイス『フェンリル』の調整をしていた。

ノエル「…シャーリー、アレを見せてくれ」

シャリオ「はい！…あの空間は生身の人間が入り込めば重力の力で二度と帰って来れなくなってしまう。けれど、この世界に一機だけ残った“新型航空船”なら話は別です！」

シャーリーがハッチを開くと目の前に航空船と思われるものが見える。

ゼロ「これは……！」

シャリオ「大きさは通常の航空船と比べて小さい方ですけど、乗り心地は保証しますよ！」

コレさえあれば、どんな場所だってひとつ飛びい！…ですね！」

ゼロ「な、名前は……なんて言うんだ？」

シャリオ「はい！名付けて『メサイア』です！」

もの凄いドヤ顔でそう叫ぶシャーリー。

ノエル「メサイア……?」

ゼロ「ベルカ語で“救世主”って意味だ。……へへっ、俺にうつてつけ名じやねえか!」

少し唇をクイツ　っと男らしく擦り付け、笑みを浮かべるゼロ。そしてこう続ける。

ゼロ「俺も…その名に恥じないよう、しっかり世界を救ってやるぜッ!」

ゼロは、この世界で出来た仲間のために新たな誓いを胸に刻んだ!

シヤリオ「発進準備は出来ています!準備が出来次第、声を掛けてください」

俺たちは、一先ず解散する事にした。

なのは「ゼロくん、ちょっと良い?」

ゼロ「……ああ」

俺はなのはに連れられ、外出した。

なのは「……目覚めて、いきなり大変な事になっちゃったね」

ゼロ「別に構わないさ。それより、アンタ達も来るのか？」

なのは「うん……。私たちも行きたいけど、生き残った人々を置いて行くわけにも行かないから……」

確かになのはの言う通り、今レジスタンスの皆を連れていけば誰もこの世界を守れなくなってしまう……

ゼロ「行けるのは俺とノエルぐらいか……」

なのは「だから、私たちの分までしっかり世界を救ってきて！」

ゼロ「ああ！そっちも任せたぜ、管理局の“エース オブ エース”……」

なのは「……うん！」

ノエル side

フェイト「……いよいよ出発の時だね、ノエル……」

ノエル「フェイト執務官……」

フェイト「少し歩きながら話そっか……」

どうせだから、僕とフェイトは『メサイア』が置かれている発車地点まで歩くことにした。

フェイト「そういえば、私たちの事……まだゼロ（かれ）に話さなくていいの？」

ノエル「いずれ時がくれば話します。それよりも、最優先すべきは“世界を救うこと”です……！」

フェイト「うん。そういうところはノエルらしいな……でも、無理はしちゃダメだよ……？」

ノエル「分かっています。必ず……全てに決着をつけて帰ってきてます！」

フェイト「うん、必ず……」

しばらく歩いた後、僕たちは『メサイア』の場所に着き、すでに到着していたゼロ達と合流した。

ノエル「……………ゼロ、そろそろ出発だ」

ゼロ「ああ……………！行こう！」

ゼロとノエルは『メサイア』に乗り込み、ノエルは操縦席に付く。

シャリオ「お二人共、発進時の衝撃に備えてください！少々、揺れますよ！」

ゼロ「こんな時に何の冗談だよ……………」

シャリーの冗談に苦笑いするゼロ。

シャリオ「ノエルさん、ゼロさん、ご健闘をお祈りします……………必ず…世界を救ってください！」

シャリーの言葉に反応し、首を縦に振り頷く。外を見ると、なのはやフェイト、それにフォワード陣の皆が手を斜めに上げて軍人のように敬礼して見送ってくれた。

シャリオ「…『メサイア』発進してください！」

ノエル「了解！『メサイア』発進します！」

ドオオオオオオオオオオ！！？

ブーストを吹かせる音と共に空に上がる『メサイア』。そしてゼロ達はまだ見ぬ異世界へと進出していく！

そう……世界を救うために新たな仲間を求めて……！

## 異世界への旅立ち 後編（後書き）

ゼロ「ついにきたなあ！！様々な世界でどんな奴らに会うのか楽しみだ！」

ノエル「多世界でも被害を受けているかもしれない……全てを救うために新たな仲間を見つけるんだ……！」

次回から『異世界進出編』始まるぜえ！！  
様々な主人公とコラボして行くぜえ！！

それでは次回もお楽しみに！

再会する聖王 (前書き)

予告詐欺をしました。誠にすみません！

次回こそはコラボさせますので許して下さい！o r z

## 再会する聖王

???side

「……ほう……ようやく“奴ら”が動いたか……」

暗闇の中……一つの玉座からモニターに映る二人の人物を見つめる黒服にフードを深く被った男。

すると、その背後から何者かが現れる――

「まったく……“守護神”と“殺し手”には困ったものです……。自分たちの世界を壊されたからといって、私の部下の大半を壊滅させられましたよ」

「……フンツ……私にはどうでもいい事だ。それよりも“計画”の実行を急ぐぞ」

「うまく事が運べば“私の世界”は元に戻せるんですね？」

「それも貴様次第だ。……もう何匹か取るに足りないネズミ共が動き出したようだ……そっちの首尾は任せるぞ、キリカ・イズル」

「ッ……了解しました」

そして銀剣の男は暗闇の中から姿を消した。

「……フフフツ……“太陽計画”は近い……！もうすぐだ、もうすぐベルカを復活させられる！」

ゼロ「ここが……多世界空間……」

航空船メサイアと共にゲートを突き抜け、多世界空間の中へと進出する。

ノエル「周りを見渡す限り地球のような球体ばかりだな……」

ゼロ「まず、どの世界から……ツ!？」

突然、待機状態であるフェンリルが翠に輝く。すると、その輝きは一直線にとある世界を刺していた。

ゼロ「呼んでいる……？俺を……」

ノエル「…決まりだ、行こう！」

メサイアは翠に輝く一本線を辿り、異世界『クシア』へと辿り着いた。

フェンリルの輝きは『クシア』に辿り着くと同時に消えていた。

ノエル「ゼロ、僕は着陸地点を見つけて船を置いてから行く。君は先に周辺に異常が無いか見てきてくれ」

ゼロ「分かった。先に行っている」

ハッチが開かれ、メサイアとは反対方向にゼロは飛び出していった。外の景色は岩壁や森が広がってばかりで後は至って普通だった…

はずだったー！ー！ー

ドオオオオオン！！！

ゼロ「ッ！……なんだッ!？」

鳴り響く爆発音、空から見ていたゼロは森周辺で起きる爆発と爆煙に一瞬驚くが冷静に判断し行動に移る！

ゼロ「先ずは状況を見るのを優先だ……!!！」

ゼロは先ほどの森周辺へと飛翔した。

「……はあ……はあ……!!」

ドオオオンッ!!

「きゃあ!!」

薄緑色をした髪に右目が翡翠、左目が紅玉のオッドアイをした少女は只管に走る。

だが、そんな彼女に桜色の弾丸が放たれるも彼女に当たりはしなかったが、足場を失われその場に倒れる。

「……うう……くっ……!!」

『動作停止、捕獲開始』

倒れている少女に非情の手が伸ばされる。

その時――

ゼロ「はあああああああ!!」

倒れている少女の目の前に流星が舞い降りる!

ゼロ side

ゼロ「小さい女の子に四人掛かりで襲うたあ……いい度胸してるじやねえか……!!」

右手を前に突き出し相棒の名を呼ぶ!

ゼロ「フェンリル!」

翠の宝玉 フェンリルは光を放ち、彼の刃となる! 騎士剣は、ギラギラと得物を求めて鈍い光を放ちながら、主の手に握られた!

ゼロ「!……これは……ッ」

ゼロがフェンリルを起動させた瞬間から、すでに大剣の形状「ユニオンフォルム」となっていた。

シヤリオ「フェンリルの調整終わりました。あと、新機能も追加したんで良かったら使ってあげてくださいね!」

ゼロ「フェンリルの『ユニオンフォルム』は“ブラッドモード”の時にしか起動できなかったが……これならッ……!!」

ゼロは少女を守るように前に出る。互いに睨み合いが続き、一瞬の沈黙が広がる……だが、少女を狙っていた四人組が攻撃を仕掛けようと構える!

その瞬間――

ドオオオオオオオオオオ！！！！！！

「きゃああッ！！」

ゼロ「くっ………何だッ!？」

ゼロ達と四人組の間に巨大な黄色い砲撃が疾走る！

すると、ノエルがゼロの横でレールガンを構えて相手に鋭い目付きを向けていた。

ノエル「……ゼロ、遅れてすまない」

ゼロ「ノエル………」

ノエル「奴らは逃がさない………ここで仕留める!!」

怒りに満ちたノエルの瞳。すると、四人組の一人が話す。

『状況終了。一時撤退する』

すると、四人組は退いていった。どうやら、退ける事に成功したようだ。

ゼロ「うおい!!そっちから吹っ掛けておいて逃げるのかッ!!」

ノエル「待つんだ、ゼロ!それよりも、先ずは彼女だ」

追いかけようとするゼロを制止させ、しゃがみ込んで啞然とした表

情でいる少女を見る。

ゼロ「ッ！……………はぁ……………おい、大丈夫か？」

「あ……………え、あ、はい!？」

少女が唾然から解かれゼロと目が合う。ゼロは少女と目が合った瞬間、一瞬驚き彼女の瞳をジッと見つめる。

ゼロ「!……………(このオッドアイ……………まさか……………)」

「あ、あの／＼／＼／＼……………何でしょうか／＼／＼／＼」

ゼロ「お前一体ー!……………いでえ!？ 何しやがる、ノエルッ!！」

ノエル「変態め……………彼女が困っている」

少女をジッと見つめるゼロにノエルの鉄拳が振られる。少女は顔を赤面させ、なにやら俯いていた。

ゼロ「誰が変態だ!こいつの瞳を見るッ!このオッドアイは“聖王オリヴィエ”のと一緒にだ……………」

ノエル「……………何ッ!？」

「聖王……………?姉をッ……………オリヴィエ姉様を知っているのですか!？」

ゼロ「!……………お前は一体……………?」

シルヴィア「私はシルヴィア・ゼーゲブレヒト。聖王オリヴィエの妹です……！」

ここに……聖王とゼロが再び交わり、物語は新たに紡いでいく……

再会する聖王 (後書き)

無神「聖王との再会きたぁー！ー！ー！」

ノエル「出会い貸らにハレンチ行為とは……万死に値する！」

ゼロ「だから、俺は何もしてないって！」

シルヴィア「わ、私は…別に気にしてませんよ…／／／／／」

ゼロ「おい、人の話聞いてたか？」

無神「さて、変態はほつといて。次回こそはコラボさせます、皆さんどうぞお楽しみに！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6351z/>

---

劇場版 魔法少女リリカルなのは Brave Force of Battle Frontier

2012年1月11日01時49分発行